

# 国際交流推進委員会

## 「国際交流推進委員会」

### 1. 構成員

#### 1) 委員

リボウィッツよし子（委員長 青森県立保健大学）、中山洋子（福島県立医科大学）  
村嶋幸代（東京大学）、山本あい子（兵庫県立大学）

#### 2) 協力者

織井優貴子（青森県立保健大学）

### 2. 趣旨

- 1) 国際的な看護高等教育に関する活動を推進し、対応が求められた時の窓口となる。
- 2) EAFONS とのネットワークを確立する。
- 3) 各大学の国際交流の現状を把握するとともに、諸外国の高等教育機関についての情報収集について検討する。

### 3. 活動経過

EAFONS は、2011 年 2 月 22-23 日と Dr. Myoung-Ae Choe を大会長として、第 14 回 EAFONS が韓国で開催された。本協議会からは、中山洋子代表理事と村嶋幸代委員が 2 月 11 日の Executive Committee Meeting に代表として参加した。議題は、1) Refinement of the By-Laws, (後程清書が送られる予定)、2) Next Forum Date, (2012 年 2 月 22-23 日 Singapore)、3) Official Journal for EAFONS (EAFONS による英文雑誌発行の必要性)、4) その他であった。

国際交流推進委員会は、第 14 回 EAFONS の窓口となり連絡調整を頻回に行い、JANPU 事務局からアブストラクトの応募の推進（今回約 100 件有）、その他の広報活動、パネリストの募集と選定、フォローアップ等をおこなった。趣旨の 2) に関しては、今後、本協議会の EAFONS 代表メンバーの選出方法について検討を行い、理事会にて承認された。①メンバーの選出時→更新時に行う②選出方法→1 名は日本看護系協議会のメンバーとし、1 名は公募とする。（博士課程のリーダーとなりうる人） 又、次期日本における開催（2016 年）については、JANPU と JANPU の会員校で行い、開催可能な大学を公募し、JANPU はそれを支援する。（共済）

趣旨の 3) 国際交流の現状についての把握は、「データベース」の整備の中で実施しているので、国際交流推進委員会では実施しないこととした。

その他、2012 年に開催される WHO グローバルネットワークの会議は、日本で開催され、会議後の第 9 回学術集会は、兵庫県立大学地域開発研究所の山本あい子所長が、引き受けることになった。JANPU の協力として①会員校への周知及び呼びかけ、②学術集会委員の協議会からの推薦、③一般演題への査読者の協議会会員組織からの推薦、④寄付については、

学術集会の周知とともに、協議会会員校に協力依頼があり、理事会にて承認された。

#### 4. 今後の課題

- \* 今後、EAFONS において英文誌が創設されていくと、日本からも編集者を出す必要があり、英語を書ける人材や査読員を強化する必要がある。
- \* 2011 年の EAFONS への日本からの発表は、大部分がポスターであり、口答発表は 3～4 題のみであったので目立ちにくく、日本がシンガポールや香港のような英語圏とどのように関わってゆくか、戦略が必要であることが、課題である。

#### 5. 資料

- \* 2011 年 2 月 15 日に開催された EAFONS Executive Committee Meeting 議事録

## EAFONS Executive Committee Meeting 2011 議事録

1. 日時：平成 23 年 2 月 11 日(土) 11:30-13:30
2. 場所：Rome Hall, 2<sup>nd</sup> Floor, Seoul Olympic Parktel, Seoul, Korea
3. 出席者：全 11 名。日本からは、中山洋子・村嶋幸代
4. 議題：(1) Refinement of the EAFONS By-Laws, (2) Next Forum Date,  
(3) Official Journal for EAFONS, (4) Others

### 5. 結果

#### (1) Refinement of the EAFONS By-Laws

Philippines が担当。欠席の Camelita Divinagracia 氏に代り、Aracil Ocampo Balabagno 氏が読み上げ、確認した。添付の原案から、以下が変更された。清書が送られてくる予定。

- Ⅲ. 目的の 7, 9 を削除した。
- Ⅳ. メンバーシップに関しては、East Asia という地域を限定する。
- Ⅴ. Meeting が、年に一回であることの表現を修正した。
- Ⅶ. 事業の推進に関して、一部削除して、明快にした。

#### (2) Next Forum Date

2012 年 2 月 22-23 日 Singapore、

世話役：Sally Wai-Chi Chan, Head, Alice Lee Center for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, Singapore

※ EAFONS に引き続き、2 月 24 日には、Asia Pacific Research Symposium が開催される。

順番：2009 Japan

2010 Hong Kong

2011 Korea

2012 Singapore

2013 Philippines? (順番としては Thailand だが、国際学会を 2012 年 11 月に開催するということで変更を希望した。)

2014 Thailand?

2015 Taiwan

2016 Japan (ここまでは読み上げられなかった)

#### (3) Official Journal for EAFONS

- ・ 予め打ち合わせが合ったようで、会場には、Wiley-Blackwell 社の Griselda Campbell, Associate Director と、Roger Watson 教授 (The University of Sheffield, Journal of Clinical Nursing の編集長) が出席していた。

- かつて、発刊されていた Asian Journal of Nursing (AJN) が止まったままで、発行されていない。アジアからの看護研究の発信をする必要がある。目下、英文誌は、日本で2誌、韓国で1誌、フィリピン1誌、アジアで合計4誌があるが、雑誌投稿へのニーズが高い。また、EAFONS強化のためにも、EAFONSによる雑誌が必要である。
- 意見交換の結果、①East Asia 発の看護の英文誌は必要であることが合意された。②翌年(2012)のSingaporeのEAFONS会議で、雑誌名、目的、使命(雑誌の魅力)、対象の範囲、編集長、編集委員、雑誌社、(経費も?)等について、審議する。

※日本を出している雑誌は、'Japan Journal of Nursing Science', 'Nursing and Health Sciences'の2誌である。

※日本は賛成の立場を取った。(雑誌発行にあたっての経済的な問題については懸念したが、EAFONSとして英文雑誌を発行することには問題はないと判断した。)

- (4) Others : 特に無し。
- (5) EAFONS参加者591名(学生:韓国55名、国際198名、計253名。教員:338名)。

#### 6. 印象、今後の課題、JANPUとして取り組むべきこと

- (1) 国として組織しているのは、日本と韓国のみ。日本はJANPUが持ち、韓国は、Korean Society of Nursing Scienceの会長とKorean Association of College of Nursingの会長が1名ずつ選ばれている。→上手に選んでつないでいく必要がある。
- (2) EAFONSから依頼されるパネルメンバーは、個人というよりも、EAFONS参加国、各々の現状と課題、今後の取り組みについて発表する方が良いでしょう。逆に、JANPUの中に、発表できるような素材を、データとして蓄積しておく必要がある。毎年、各大学から出して頂くデータが、今後の日本の看護学の高等教育の基礎データとなり得るように、デザインしておく必要がある。
- (3) 今後、もし、英文誌が創設されていくと、日本からも編集者を出す必要がある。JJNSを維持するだけでも、かなりハードなので、英語を書ける人材を強化する必要がある。
- (4) 発表と参加者に関して、日本人は多数参加し、発表もしていたが、大部分がポスターであり、全体として目立ち難い。口頭発表は、日本からは3-4題のみだったが、タイやフィリピンからは多く、勢いを感じた。
- (5) シンガポールや香港が、英語圏ということもあり、リーダーシップを取りはじめている。英文誌の発行についても積極的である。今後、日本がどのように関わっていくかについて、戦略が必要である。(Board memberの選定、演題の出し方、アピールの仕方等。)

(議事録作成:村嶋)